



鈴宮ハレヒの憂鬱

I : UFO団全員集合！
(アンソロジー)

森野イブキ

U F O 団 全 員 集 合 ！

そもそもの始まりは、俺の後ろの席にいる、いかれ女の存在だった。

まず、最初のクラスの自己紹介からにして、そうだった。

鈴宮ハレヒ「変な人間にしか興味ありません。この中に、奇人、変人、超人がいたら、すみやかにあたしの所に来なさい。以上！」

俺は思ったね。変人って……じゃあ、変態とかストーカーでもいいのか？ コイツ、黙ってりゃ、いいツラしてんのかな。

きっとコイツの頭の中は、お花畑に違いない。俺はそう結論づけた。

思った通り、ヤツの外見に騙されて何人もの男どもがアタックしたようだが、全て玉砕したようだ。おまけにこいつとなかよくなるとういう女子にさえ、全く関心を示さないのだ。

本当に困ったヤツだったんだ。

で、変な同情心からか、俺はソイツ、鈴宮ハレヒに話しかけるようになった。

初めはろくに返事もよこさなかったが、俺はボランティア精神の強い持ち主だ。クラスから浮いているヤツに同情していたんだろうな。

ある日、珍しく鈴宮の方から話しかけてきたのだ。

鈴宮「本当、あんたって珍しいくらいに変わってるわよね。あたしが邪険にしてんのに、毎日話しかけてきて」

俺「ああ、暇だしな」

鈴宮「あんた、ストーカーの才能あるんじゃない？」

俺「ああ！？ それ、誉めてないっていうか……全然、嬉しくないんだけど。って、いうか、俺は違うぞ！ 全力で否定する！ それに、女子だったらストーカーなんて気持ち悪いと思うだろ、普通。なあ、鈴宮？」

鈴宮「ハレヒでいいわよ。ところでさ、あんたのあだ名ってなんていうの？」

俺「あだ名？ ……俺の本名は……」

ハレヒ「ああ、本名なんてどうでもいいわ。あんたの本名なんて、どうせ平凡でしょ？ で、あだ名は？」

俺「くっ！？ ……キユンだ」

我ながら、恥ずかしいあだ名だと思う。そういえば、誰が付けたんだっけ？

ハレヒ「変なの！ ははは！！ やっぱ、あんたは合格よ！」

キユン「……なあ、ハレヒ。一体、何が合格なんだ？」

ハレヒ「あたしがこれから作る、U F O 団よ！ キユン、あんたが団員その1って訳」

キユン「で、その……U F O 団だったか。それで、何をするつもりなんだよ？」

ハレヒ「そんなの、作ってから考えればいいのよ！」

つまり、ノープランって訳だ。いかにもお前らしいよ。

こうして、鈴宮ハレヒと俺の二人で始まったU F O団だったが、ハレヒがどこからか拉致してきた、上級生とは思えない愛らしい、夕日奈みるくさん。そして文化部を乗っ取った時に、おまけでついてきた無口キャラでハレヒの問いに肯定しかない元の文化部員の永井戸雪。そして、変なタイミングで転校してきた、というだけのニヤケたそれなりのイケメンの小泉
一気・・・・と、メンバーだけはなんとかそろった。
で、廃部寸前だった、文化部を占拠してU F O団の本拠地としたのだった。

ある日、ハレヒはメンバーを招集した。

ハレヒ「今日は、我がU F O団の活動方針を発表します！ それは、この世の奇人・変人・超人を探し出して一緒に遊ぶ事よ！」

瞬間、部室が静まりかえった。

沈黙を破ったのは、小泉だった。

小泉「さすがは鈴宮さん。（周りを見回して）いや、よくわかりました」

ん？ 小泉よ。今の説明で何が分かったんだ。俺にも分かるように教えてくれ。

小泉「いいでしょう。では、のちほど」

ハレヒが帰った後、三人とも俺に話があるようで、夕日奈さん、永井戸、小泉の順で話を聞いた。

夕日奈さんは奇人、ではなく貴人。つまりすごいお金持ちのお嬢様だとか。この人が一番まともっぽい。(可愛いしな)

次に、永井戸。無口キャラなこいつは超人だという。出来ない事はほとんどない(自称)、とか。(しかし、感情を出さないやつだな)

最後に残ったのは、ニヤケたイケメンの小泉だ。ヤツは自称、変人だとか。変人、といっても変身ヒーローらしい。(嘘くさっ！)

正直言って、かなり怪しい連中である。

ところで、俺自身は何者なのかと、三人に聞いてみた。

夕日奈さんは、「優しそうな人」(俺の、好感度ナンバー・ワン！)。

永井戸は、「ただの人」。

で、小泉はというと、

「普通の人・・・・と、言いたいところですが、あえて言うなら、変態ですか(笑)。あの、鈴宮さんと気が合うなんて・・・・」

小泉には、最後までしゃべらなかつた。いや、しゃべらせなかつた。俺が、ぶっ飛ばしたからだ。

キュン「誰が変態だ、誰が！！」

こうして俺がU F O団に立ち入る事は、多分なかつたと思う。いや、思いたい。

ま、普通はこんなものさ。

(終わる!?)

→導入編で、話終わらせちゃ、ダメですか?!

鈴宮ハレヒの憂鬱 I : UFO団全員集合！

<http://p.booklog.jp/book/50108>

著者：森野イブキ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/morinoibuki2012/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/50108>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/50108>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.